

合併症妊娠と高齢妊娠

① 全身合併症

北海道大学大学院医学研究院生殖・発達医学分野産婦人科学教室

森川 守

KEY WORDS

- 悪性腫瘍
- 消化管疾患
- 甲状腺疾患
- 膠原病
- 血液疾患

Pregnancies with complications
and pregnancies over 35:
Chronic diseases.

Mamoru Morikawa (准教授)

はじめに

ヒトのみならず生物は男女ともに加齢に伴い、疾病を患う可能性が高くなる。ヒトでは寿命が伸びたこともあるが、生活スタイルの変化に伴い晩婚化が進み、女性では妊娠・分娩年齢が高くなっている。特にわが国ではその傾向は顕著である。したがって、合併症妊娠が増加する可能性が高い。本稿では、与えられた「悪性腫瘍、消化管疾患、甲状腺疾患、膠原病、血液疾患、など」をテーマに、合併症妊娠を高齢妊娠の観点から述べる。なお、最大の合併疾患である高血圧と糖尿病に関しては、「ハイリスク妊娠と高齢妊娠②妊娠高血圧症候群とその関連疾患(p15)、③妊娠糖尿病(p21)」に譲る。また、誌面の制限により各々の合併症の各論(一般的な診断ならびに治療)は割愛する。成書を参照されたい。

I. 全体を通じて

本稿での最重要ポイントは「妊娠に伴う免疫寛容」である。通常は異物が体内に入ると免疫能により体外へ排出する機序が働く。たとえば、咽頭や鼻腔では咳嗽、喀痰、鼻汁として、胃腸では嘔吐あるいは下痢として、である。では、子宮内の胎児はある意味では「半分は赤の他人(夫)からの異物」である。その胎児の多くが子宮内から排出(流産)されないのは、妊娠中は免疫能が低下(免疫寛容)していることによる。これは妊娠維持には重要であるが、免疫反応が関与する既存の疾患は妊娠中に増悪または進行する。したがって、疾患自体の治療が最も重要ではあるが、妊娠を終了することが疾患の改善につながる場合も多い。

また、妊娠を早期に終了する必要がある場合には、児の胎外での生育限界との兼ね合いがポイントになる。すなわち、児の娩出時期によっては、児を